

緑の地球 GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

前人栽樹、後人楽涼	P 2
元宵節の大同で	P 3
重油回収ボランティアの現状	P 5



この大地から舞い上がった黄砂が風に運ばれて日本に春を告げる (撮影: 橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『黄土高原に緑を!』を見る
- ☆使用済みテレカを集めて送る
- ☆KDD グリーンアースダイヤルに登録する etc. あなたのご参加を待っています!

1997・3

54

前人栽樹、後人楽涼

祁学峰さん（綠色地球網絡大同事務所長）が答える

ここに掲載するのは、緑の地球ネットワークとの黄土高原での緑化協力について、日経新聞の鹿児島昌樹記者がおこなった質問にたいしての、綠色地球網絡大同事務所・祁学峰所長の回答です。鹿児島さんの協力をえて掲載いたします。

【問い】 山西省の各市・県の行政関係者、住民などは、GENの活動をどのようにみえていますか？

【答え】 山西省大同市青年連合会とGENとの緑化協力はすでに5年がすぎました。このかんの努力をつうじて、黄土高原の緑化活動は大きな成果をかちとり、造林面積は4万ムーにたっしています。各クラスの責任者の重要視と支持、ならびに地元の農民の参加となみなみならぬ努力がなければ、このような成果をあげることは不可能です。それだけでもGENとその活動が、歓迎され、支持されていることを立証していると思います。

【問い】 山西省以外の省からも注目されていますか？

【答え】 ほかの省の人たちは、この活動の展開について、いまのところよく知らないの、それほど大きな注目はしていません。しかし、協力の双方がこの活動についての宣伝にも力をいれていますので、この重要な意義をもつ活動は徐々に他の省の人たちに重視されるようになっていきます。

【問い】 祁学峰さんにとって、この協力活動はどのような意味をもっていますか？

【答え】 私は、山西省大同市青年連合会の副主席の身分で、199年春からこの緑化協力活動に加わり、そのときから高見さんといっしょにしごとをするようになりました。そして実際上は、高見さんと私とがこの緑化活動の具体的な組織者になっています。

3年来の出来事をふりかえると、ふかい感慨がわいてきます。黄土高原の東端に位置する山西省大同市は10年のうち9年が旱魃といわれ、年間降水量は400~600mmで、なかには200mm余りのところもあり、風砂がきつく、無霜期が短く、自然条件は劣悪です。

そのなかで150万人の農民が暮らし、

うち22.4万人は貧困ライン以下（1人あたり年間所得500元 [1元=約15円] が貧困ライン）の生活を送っています。経済の立ち後れで、生活が貧しく、文化が遅れ、考え方も古くさく、自然を改善する能力も低い状態です。

GENは、このような環境のもとで、困難かつ長期にわたる事業にとりかかりました。この事業にたずさわる日本人、中国人にたいして、私は深い尊敬の念をいだいています。この事業は自然界にたいする挑戦であるだけでなく、貧困にたいする戦いでもあるからです。

私たちの緑化協力事業は、自分たちの世代ではその成果をみることはできませんが、「前世の人が木を植え、後世の人が涼む」という中国のことわざのとおり、後世のために富をのこすとしても意義深い仕事です。

同時に、たいへん困難なしごとでもあります。自然環境を改善することもたいへんですが、より困難なのは、地元の農民たちの考え方を変え、環境保護の意識を向上させ、彼らを貧困から助けだすことです。1年2年で解決できるのではなく、長い時間と根気を要するしごとです。

GENのみなさんと高見さんは、遠路はるばる黄土高原にきてこの活動を展開していますが、それが尊敬にあたいするのは、この困難を意識するだけでなく、この困難を直視し、それを克服するために努力をしていることです。

私は1人の参加者、組織者として、そのことに誇りをもち、また責任を強く感じています。

私は高見さんと彼のなかまたちに敬服しています。みなさんの仕事にたいする執着心に感動し、それに感染しています。いつの日か、いまのポストを離れることがあったとしても、側面からこの事業に参加し、支持していきたいと思っています。

【問い】 今後についてどのような希望がありますか？

【答え】 この協力活動を以下のようにすすめたいと思っています。

①大同市北部の平地と東部の山地を2つの大きな造林地域とし、地元の青年団に主力軍の役割を發揮させ、「四荒地」(荒れ山、荒れた谷、荒れた河川敷、荒れた傾斜地)を請け負わせ、造林面積の拡大に努力します。

②南郊区平旺の「地球環境林センター」を中心に、技術の研究と実験、人材の育成をおこない、緑化活動のレベルアップにいっそう努めます。

③教育への援助、貧困な村の自立援助と、造林緑化を結びつけ、継続して小学校付属の希望果樹園を建設し、人びとの環境保護意識ならびに文化教養レベルの向上にとりくみます。

1997 夏の黄土高原ワーキングツアー

春のツアーではせっかくお問合せをいただいたのに定員を過ぎてお断りせざるをえなかった方がおられました。ごめんなさい。たくさんの方に黄土高原を見ていただきたいし、かといって現地の受け入れ能力以上のことはできない、ちょっとしたジレンマです。

夏の黄土高原ワーキングツアーを下記のように予定しています。まだ未確定ですが、会報の次号までには確定しますので、「行ってみよう」という方は予定しておいてください。

●日時：7月24日（木）～8月4日（月）

●費用：23万円（学生22万円）程度

●申込み締め切り：6月24日（定員に達し次第締め切ります）

※以上すべて変更の可能性あり。

●定員：30人

★今夏は中国仏教の名山、五台山と太原も訪問する予定です。



元宵節の大同で

工藤 寛之 (GEN世話人・大学生)



大同県陳庄郷の農家に一泊し、朝食後のひととき、大同県共青団の書記が通訳の王萍さんに何やら議論をふっかけている。王さんに尋ねると穏やかに、「毛沢東が死んだときは本当に悲しかったけど、鄧小平が死んでも悲しくないよ」「えっ!? 鄧小平が死んだの?」「そうよー、昨日死にました」。

私は驚いたが、落ちついて辺りを見回すと、私とその書記以外の共青団員はオンドルの上でトランプに熱中し、庭先では家人が羊の世話に励み、畑では村人は馬車を引いて昨日と同じように堆肥を運ぶのみである。

確かに中央からは「喪」に服すよう命令が出て、大同市も祝い事を禁止、半旗を掲げていた。しかしそれは表向き。実際は何も変わらず、予定通り元宵節のお祭りが行われた村もあった。

こうした現象は、イデオロギー支配

の中国をイメージする外国人には意外だろう。だが、黄土高原の実情を考えたとき、その理由は判然とする。

つまり、「何も変わらなかった」ということこそが、黄土高原における「改革・開放」という政治システムの姿だったのである。沿岸部の発展とは無縁に貧困が居座り、乾いた大地に閉じこめられて農民は一生を終える…。厳しい自然環境と生活は、鄧小平の号令の下でも何一つ変わらなかったのだ。

経済構造は「改革・開放」されたかもしれない。しかし、農民の生活と希望に「改革」は訪れ、「解放」はなされたのだろうか。答えは「否」だ。20世紀という残忍な「政治の季節」の限界そのものを、地域の事例として端的に示したものといえるかもしれない。

私たちはその黄土高原に緑を作ろうと力を合わせる。それは視点を変えれば、「政治の季節」を乗り越え、果てしなくめぐる農民の時間とともに歩むことだ。政治、イデオロギーの相違をくぐり抜け、私たちは乾いた大地に木を植える。都市というエアコンに埋もれた近代政治とイデオロギーは、夏の暑さも冬の寒さも知ろうとはしない。

黄土高原訪問の5日目、私たちは河口堡村を訪れた。そこで目にしたのは目もくらむ急斜面の植林地と、枯れてしまった多くの苗木の姿だった。その光景に一瞬言葉を失ってしまった私の横で、ぶっきらぼうに森林公安の警官が言った。「また、補植します。」彼の言葉に、私は言い表せない重みと尊厳を感じた。失敗と、挑戦と。長城の歴史を越えるくらいの時間を、私たちは必要とするのかもしれない。それは外交文書には決して記載されない努力であり、だからこそ一市民・農民の交流が必要とされ、とくに私たちは黄土高原の農民たちが持つしなやかな生命の営みに学ぶ必要があるのだろう。

北京への帰路、夜行の車中でふと目が覚めた。カーテンを少し開け外を見ると、今回の旅2度目の半月が輝き、西からの風が強く雲を飛ばしていた。もう1か月もすると春耕がはじまり、巻き上がった黄砂がハワイの観測所に春の到来を告げるだろう。しかし、黄土高原に木を植えようとする私たちには、その風は砂だけでない、大切な希望を運んできてくれるはずだ。

緑の中国 歴史篇 12

上田 信 (立教大学助教授)

『詩経』の「漢広」の二番・三番では、次のように歌われています。

- 2：翹翹(ぎょうぎょう)たる錯薪
ここにその楚を刈る
この子ここに帰す
ここにその馬の秣(まぐさ)する
漢の広き
泳ぐべからず
江の永き
方(いかだ)すべからず
- 3：翹翹たる錯薪
ここにその萑(る)を刈る
この子ここに帰す
ここにその駒の秣する
(以下、くりかえし)

さて、「翹翹」とあるのは、木の枝が鳥が羽を高くさし上げたように、上に向かって伸びてゆく様子を示す。樹木を断ち切った後に、切り口のあたり、あるいは根本からいっせいに茂るひこばえだっと思われまふ。「楚」とはその柔らかい当年枝のこと、三番にある「萑」とは、その細い枝のこと。

ここで、深読みしてみましょう。

この詩が歌われたのは、開拓村だったのではないのでしょうか。周の地、すなわち黄河流域から漢水流域に移り住み、照葉樹林を開墾している現場では、伐り倒した大木から、無数のひこばえが生えていたはずで。この村に、さ

らに南方の異境の民の娘が嫁いで来る。その娘を乗せる馬に、ひこばえの柔らかい葉をまぐさとして与えるのです。すると、「漢の広き」以下の部分は、嫁いでくる娘の心情を歌ったものになるのかもしれませんが。周の人のもとに嫁いだからには、親・兄弟が住む森とのあいだには、広く長く、流れが急な大河が広がっているのです。

黄河流域で生まれた農耕文明は、焼き畑ではありません。森林を焼き払って更地とし、人手をかけて雑草を抜き、家畜の糞や人糞を肥料として投入することで、持続的な耕地利用を行いました。この文明が南方に広がるときに、移住と現地の女性との婚姻が行われました。「漢広」をこうした歴史の一劃として読むことも可能でしょう。

緑の地球 ネットワークの みなさんへ

神戸市北区の長尾小学校から使用済みテレカが送られてきました。テレカ集めをしてくれた飼育栽培委員会のみんなが手紙を添えてくれたので、一部をご紹介します。



緑の地球ネットワークのみなさんへ

私は、今年卒業です。小学校生活最後の年なのでなにかやくにたつことができないかなやみました。なやんでいたとき先生がつかいきたテレホンカードをあつめているところがあると書いて私たちしうきさいばいいんかいは、テレホンカードをあつめることにしました。

全校100人たらずの学校ですがいっしょうけんめいあつめました。

これでやくにたてると、とてもうれしいです。

まだ、これからすこしのあいだ学校生活がのこっているの、つづけていきたいと思います。

長尾小学校6年 豊中杏美 あずみ

このことを知ったのは、ボランティア

アの本を読んで知りました。

さっそくテレホンカードをあつめたら、最初は75まいもあって、びっくりしました。

最初は、ちゃんと集まっているか、しんばいでしたが、なかなか集まるのが早くて、うれしかったです。この学校は、小さな学校で、しうきさいばい委員会の6人で、このことを決めました。ボランティアの本を読んで、どれをやるのか、これをやるのかとなやんで、このテレホンカードのことに決まりました。

学校の周りには、木もいっぱいあります。町にはないしよくぶつもある自然にかこまれた学校です。

緑の地球ネットワークのみなさんも、これからもガンバってください。

長尾小学校 奥町友美 ゆみ

世界の森林と日本の森林 (その8)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

●里山の重要性

里山とは、人びとが生活の場の補給地としていた、村落に近い二次林のことである。おもにエネルギー源としての薪炭、有機肥料としての落ち葉がその採取目的物であった。いまその里山は荒廃しつつある。エネルギーは化石燃料と電気が、肥料は無機化学肥料がそれにとって代わり、人びとが里山を放棄したからである。

江戸時代から昭和の初期のころまで、里山はフルに活用されたが、とくに江戸時代は化学肥料も農薬もまったくない有機農業であった。もしも里山がなかったら、日本には300万人はおろか100万人も住めなかつたろう。里山の生産力は、乾物にして毎年ヘクタールあたり7トンほどあるといわれ、それが狭い農地に投入されて地力が維持されてきたのである。もちろん、われわれの排泄物の肥料価値も高かったから、これも100%利用された。また干ばつから逃れるためのため池にたまったヘドロは奥山、里山から流れでて、半分ほど分解した有機肥料として用い

られた。こうして300年ものあいだ、300万の人口が養われてきたのである。

いまこの里山が危機に瀕しているのは、自然林と違って人手で維持された森林だったから、放任されると遷移が進んで入り込めないような森林となり、やがては原生林へと戻っていくことが予想されるからである。もう二度と利用しないのなら自然林に戻ってもかまわないかもしれないが、1億人をこえた人口では、利用しやすい里山は残さねばならないように思われる。

●荒廃した京都の北山

中学生のころよく通った京都北部の山やまを訪ねて驚いたのは、もう里山がなくなってしまい、多数の植物が絶滅していたことである。多くの落葉高木類、その下に生える灌木類、そして多数の美しい花をつける下草類がもうほとんど見られなくなっていた。里山が放棄されたのなら、絶滅はしなかつただろうが、スギの植林で絶滅に追いやられたのである。そのスギの植林地は太さからみて15~25年生で、鬱閉して林床は真っ暗となり、少数のシダ

が生えているだけになってしまっていた。数十種の種類が巧妙に組み合わせられてできていた林が、一種のスギ(またはヒノキ)に占領されて、生態系が壊れてしまう羽目になったのである。

林業で生活しなければ収入がなくて生きていけないのなら、ある程度やむを得ないかもしれないが、密植して間引きもしていない場所が結構多いのを見ると、林業は成り立っていない場所が多いに違いない。人件費がこんなに高くては、間引きの手間賃もでないだろう。引き合わないから間引きもおこなわないのであろう。間引きをおこなえば数十年後には何十万円もする材木が得られるが、このまま放置すると材木としての価値もなく、風水害も引き起こされるおそれがある。そして自然は完全に破壊され、回復不能に近い状態になるだろう。生活の資材採取場所としての里山を、材木生産地としての山林へ変身させようとして植林されたが、経済発展によってこれを放置し、現在のようになってしまったのである。いま、里山は環境をよくするための環境財として価値がある、といわれるようになった。京都のような古都の近郊でさえこんな状態である。日本全土の里山よ、どこへ行くのか、と心配でならない。



重油回収ボランティアの現状について

長坂 健司 (GEN世話人・大学院生)

日本海重油流出事故が発生してから、すでに2ヶ月以上が経過しています。阪神大震災に続き、多くの人びとがボランティアとして重油の回収作業に従事しました。ここでは、実際に作業に参加して感じたことを述べてみます。

京都府網野町は、鳴き砂で有名な琴引浜があることで有名な丹後半島に位置する町です。そこでも、1月上旬から重油の漂着が確認され、時化のあとには浜一面が黒い重油塊でおおわれる状況になりました。そこで、1月の下旬に網野町の有志を中心として「丹後ボランティアネット」を立ち上げ、ボランティアの人びとの力を借りる体制を作りました。私が現地へ赴いた際、初めの三日間は本部詰めで電話の応対を主にしていたのですが、ひっきりなしの電話で用意してあった3回線の電話は常に話中でした。全国の方のボランティアに対する関心の高さをまざまざと見せつけられた思いでした。

その後、浜で作業することになったのですが、そこで驚かされたのは、砂浜には新たに漂着した重油塊はほとんど見あたらなくなったものの、少し掘ると大きなものでは手のひら大のものが埋まっていることでした。これでは、表面上はきれいな砂浜に見えても、気温が上がると固まっていた重油が溶け出す恐れがあります。そういった、砂中の重油と砂をより分けるために当初はふるいにかけるという人海戦術を採っていたわけですが、それではいつまでたっても終わらないので、現在いくつかの機械が試行されています。早く回収が終わって、夏、美しい砂浜に寝ころがれる日が来ることを願います。

地震や今回の重油回収のように緊急性のあるボランティア活動の際には、ボランティア組織運営上さまざまな問題が浮き彫りになります。これらの問題を今後のボランティア活動で繰り返さないためにも、一年後ぐらいにボラ

ンティア活動全体を振り返る機会を持ち、その結果を公表する作業が必要であると私は考えます。メディアの側にもこういったスタンスが求められるでしょう。

今後の重油回収ボランティア活動の存続にかんしては、市町村毎に対応が異なってきます。ボランティアに今後参加したいと思っらっしゃる方は、ホームページを見るか、直接市町村役場に問い合わせてみてください。

【丹後ボランティアネット】

TEL.0772-72-1000

インターネットHPアドレス：

<http://www2.nkansai.or.jp/org/sea>



手のひら大の重油塊が砂に埋まっている。気温上昇でとける前に回収が必要。

重油流出事故ボランティア情報

FAX サービスはじまる

重油流出災害に関する情報は、各地方自治体やNGOが個別に発信していました。また、現地の対策本部やボランティアセンターでは、人手も十分ではなく、問い合わせが集中すると応じきれないことも。そこで、“救え日本海！ボランティアネット（環境庁環境パートナーシップオフィス、ジャパンエコロジーセンター、クリーンアップ全国事務局）”が情報を一元化し、FAXサービスとインターネットで情報収集と発信をはじめました。

【FAXサービスの利用方法】

- ①FAXで03-5353-7466かける。
- ②9999#をダイヤルする。
- ③スタートボタンを押し受話器をおく。

【インターネットHPアドレス】

<http://www.wnn.or.jp/wnn-c>

(協力：NTTのWorld Nature Network)

★“救え日本海！ボランティアネット”

TEL.03-5469-3056 FAX.03-3406-5190
情報提供もうけつけています。

募金窓口

- 野生生物救護獣医師協会WRV
郵便振替 00120-2-350855
名義 油汚染生物救援募金
- 油汚染海鳥被害委員会OBIC
郵便振替 00130-7-350734
さくら銀行神宮前支店普通6888870
名義/口座名日本野鳥の会OBIC 基金
- WWF
第一勧業銀行本店普通1095822
口座名 WWFジャパン油汚染救済募金口
取り扱い期間 97年7月31日まで
WWF自然保護室 TEL.03-3769-1713
〃 広報室 TEL.03-3769-1714
☆以上3つは、野鳥保護・野鳥被害調査・海洋生態系保全対策検討などに関するものです。
- 日本災害救援ボランティアネットワークNVNAD
さくら銀行西宮支店普通7022161
口座名 NVNAD 国内支援口 代表伊永勉

GEN自然と親しむ会

立花先生と新緑の植物園を歩く

- 日時：5月25日(日)10時～15時
- 場所：大阪市立大学理学部附属植物園(京阪「私市」駅徒歩6分)
- 集合：京阪電鉄交野線「私市」駅前 午前10時
- 持ち物：弁当、水筒(植物園内には飲食施設はありません。)
- 参加費：大人700円、こども200円(保険料ふくむ、植物園入園料大人350円〔中学生以下無料〕は別)
- 講師：立花吉茂さん(GEN代表・花園大学教授)
- 申し込み：5月20日までにGEN事務所まで

ロシアのアイヌ資料

越智 誠一



1月18日、小雪舞う函館の市立函館博物館において、「ロシアのアイヌ資料について」と題する市民講座が開催され、筆者も参加した。その概要を簡単にご紹介したいと思う。

95、96年の夏に荻原真子・千葉大学教授を団長とする日本側調査団とロシア側グループとの共同作業により実施された、ロシア科学アカデミー人類学・民族学博物館（在サンクト・ペテ

ルブルグ、略称MAE）と文化省ロシア民族博物館（同、略称REM）のアイヌ資料の確認・記録の報告を函館博物館学芸係長である長谷部一弘氏が主にスライドとOHPを用いておこなった。参加者は高齢の方々が多く、約30名であった。

ロシアのアイヌ資料については、18世紀から19世紀にかけての南サハリンを中心とする調査資料が文献として残っており、生活用具等の資料の存在が予想されていたが、その内容は不明であった。しかし今回の調査により、MAEで1056点のアイヌ資料が確認された。そのうちポーランド人の民族学者B・ピウスツキが収集した資料が約千点あった。コレクションの内容は、棒酒籠、太刀等の信仰・儀礼用具、弓

矢、銚等の狩猟・漁撈用具、小刀、砥石等の調整・加工用具、しゃもじ、スプーン等の炊事・調理用具の他、服飾具、喫煙具等である。収集地もサハリン以外に北海道も含まれ、鶴川、白老、日高のものが比較的多い。

貴重なものとしては、サハリンアイヌの妊婦用腹帯や「ウコニルシペ」という木製の四角い陣取りゲーム、3m長の犬ぞりがあり、スライドで紹介された。また興味をひくのは、チセ等の移動不可能な資料については、精巧な模型を作成して保存している点である。そしてほとんどすべての資料には、収集地や使用目的、材質、入手経路、アイヌ語とロシア語による資料名が記されており、アイヌ調査に対するロシア民族学の水準の（次ページにつづく）

菌根菌に“共生”を学ぶ

小川真さん講演会『沙漠緑化と微生物』

日本海側でマツ枯れがはじまったのは90年ごろ、さらに太平洋側でもスギ、ヒノキ、ヤマザクラ、ウメなどが枯れています。酸性雨、酸性雪が主な原因のようです。日本に水を恵んでくれる冬の雪と梅雨の雨が、中国の工業発展にともなって上空の汚染物質まで運んでくるようになってしまったのです。

「中国で環境に対する意識が高まらなければ、日本の森林は減んでしまいますよ」ちょっとどきどきとする小川真先生のお言葉でした。

「“地球との共生”なんて簡単に言うけど、共生はすなわち共倒れ、相手が死んだら自分も死ぬということ」だとも先生はおっしゃいました。

菌根菌は植物の根と共生しています。植物の根にリンなどを供給し、根から糖をもらうのです。4億年つづいてきた共生関係ですから、「相手を生かして自分も生きる」ことは徹底しています。①菌糸の成長はとても遅く、植物の根が伸びる速度とシンクロしている。

②キノコをあまりつくらない、つまり子孫を増やさない。③簡単な構造の糖しか吸収できず、セルロースなどを分解したりできないので、相手を傷つけることがない。この3点、むやみに成長しない、増えない、他者を傷つけないのが共生の基本であるとするれば、人間もようやく最近、共生の初期段階に入りかけているのかもしれないね、と苦笑まじりに話されました。



大同での緑化協力は、地球環境林センターの建設で、ソフト面での協力という新しい方向に踏み出しました。小川真先生に菌根菌も試していただくことになっています。黄土高原に緑が増えて、大同の人たちが森林や環境の大切さを実感できる日が早くくることを願っています。（東川）

関東ブランチから

★中国の緑化と「国連気候変動に関する枠組み条約」第3回締約国会議

話題提供：高見邦雄（GEN事務局長）
上田 信（GEN世話人）
工藤寛之（GEN世話人）

- 日時：3月23日（日）15時～17時30分
- 場所：立教大学（池袋キャンパス）12号館2階第2会議室
- 問い合わせ：上田信（TEL/FAX. 03-3838-1695）当日14時30分以降、会場TEL. 03-3985-2585

カレーパーティーのお誘い

家庭料理の定番として根強い人気のカレー。スリランカの本格的な作り方を教わった後、みんなでわいわい食べましょう。講師は10種類以上のカレーをつくとはりきるプラバットさん。

- 日時：4月26日（土）11時～3時頃
- 場所：バクハウス2階（三田屋富田林店隣）、駐車場あり。
- 参加費：1500円（小学生以下1000円）
- 申込み：4月21日までにGEN事務所まで。

(前ページよりつづく) 高さがうかがえる。

ただ残念なことは、サンクト・ペテルブルグの両博物館にアイヌを専門とする研究者がいないことである。ロシアは世界最大といわれる『アイヌ語ロシア語辞典』を残したドブロトヴォルスキイを輩出した国であり、以前のような優れた研究者が育ち、将来日本とロシアが自国のアイヌ資料を互いに公開する等の共同研究が活発になされる日がくることを期待したい。

最後に、函館には他に函館市北方民族資料館があり、ここには有名な馬場コレクション、ニブフやウィルタ等の北方民族資料が多数展示され、映像資料も観ることができる。一見の価値があると思うので、ぜひ足を運ばれることをおすすめする。なお市立函館博物館では、年間20回程度博物館講座が開催されており、アイヌ関係の講座も数回開かれている。問い合わせは市立函館博物館 (TEL. 0138-23-5480) まで。

有澤浩さん講演会

『北国の森林～そこに生きる生物たち～』

ナショナルトラスト・『チコロナイ』の北海道二風谷ワーキングツアーでいつも見学させていただき、お世話になっている東京大学農学部の富良野演習林の有澤浩さんを大阪にお招きして、講演会を開きます。北の自然の一端に、そっとふれてみませんか。

- 日時：5月17日(土) 14時30分～17時
- 場所：大阪市立弁天町市民学習センター講堂 (JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅すぐ、TEL. 06-577-1430)
- 内容：映画『樹海～天然林を育てる～』講演『北国の森林～そこに生きる生物たち』(スライドあり)
- 参加費：800円(資料代ふくむ)
- 主催：緑の地球ネットワーク
- お問い合わせ：GEN事務所、または武田繁典 (TEL./FAX. 06-704-7720) まで。

春の二風谷ツアー募集!!

- 日程：5月9日(金) 21時30分千歳空港集合
5月12日(月) 17時千歳空港解散
9日、10日、11日は二風谷荘泊。
- 内容：10日、11日 二風谷で山菜採り、アイヌ料理体験、チコロナイの森の観察や作業。
12日 白老アイヌ民族博物館の見学。
※天候等により変更もあり。
- 定員：10人以内、先着順。
- 締め切り：4月10日。
- 費用：集合から解散まで全費用3万円(保険料もふくむ)。集合・解散地までの交通費はふくまれません。早期割引航空券なら、大阪⇄千歳空港で3万円強です。
- お問い合わせ・お申し込み：武田繁典 (TEL./FAX. 06-704-7720) まで。

.....

チコロナイ現状報告

2月28日までの集計で、第1期からの総人数385人。第2期計画の寄付金が2,440,440円、第1期からの繰越金とあわせて3,205,419円になりました。引き続きご支援をよろしく願います。【連絡先】GEN事務所または武田繁典 〒546大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL./FAX. 06-704-7720) 貝澤耕一 〒055-0北海道沙流郡平取町二風谷31-3 (TEL. 01457-2-2089、FAX. 01457-2-3991) 郵便振替 00900-2-5202チコロナイ

チコロナイ通信のお知らせ

チコロナイ関係の学習会、アイヌ語講座の予定、ミニニュース、『アイヌ語ひとくちメモ』などを載せた「チコロナイ通信」を毎月発行しています。郵送ご希望の方は、郵送料ともども1年間分1200円を80円切手15枚で同封の上武田繁典までお申し込みください。

チコロナイアイヌ語講座

～いやでもわかるアイヌ語～
第2期第5回

- 日時：3月22日(土) 14時～16時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第2期(6回)分で2000円
- 問い合わせ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)
- ★初めての方もどうぞ。1回だけの飛び入りも大歓迎です(400円)。

第22回チコロナイ学習会のご案内

- 日時：3月22日(土) 16時～18時
- 場所：GEN事務所
- 内容：前回に続きビデオをみて学習します(内容はどうぞ期待!)。
- 参加費：100円+カンパ
- 問い合わせ：武田繁典
- ★初めての方も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。どうぞ!
- アイヌ語講座・チコロナイ学習会とも4月は第4土曜、4月26日の予定です。



【有澤浩さんのプロフィール】
1936年 北海道生まれ
1955年 北海道富

良野高校を卒業後、東京大学農学部北海道演習林に勤務。天然記念物、クマガラの生態研究に専念。1999年3月停年退職し、その後、「森林生物研究所」主宰予定。日本林学会会員。日本自然保護協会会員。

【著書】

『北国の森の博物誌』河出書房新社
『森の動物』北海道新聞社
『北の森の動物誌』朝日新聞社
『クマガラの森から』朝日新聞社
その他、幼児向け絵本など。



「水と緑を守る」市民の集い
～公開シンポジウム～

- ◎基調講演「市民が支える上流の森づくり」奥野寿一氏（河内長野市森林組合専務理事）
- ◎パネルディスカッション
- 日時：4月19日（土）13時30分～17時
- 場所：堺勤労者総合福祉センター「サンスクエア堺」
- 主催：大阪堺YMCA / 大阪堺・大阪泉北・大阪長野ワイズメンズクラブ
- 参加費：500円
- 申込み・問合せ：「水と緑を守る」市民の集い事務局（〒591 堺市百舌鳥赤畑町2-92-1 大阪堺YMCA 内 TEL. 0722-58-188 FAX. 57-7893）まで

NGO 国際シンポジウム
地球温暖化と私たちの未来
COP3 まで247日

- 日時：3月29日（土）13時～16時30分
- 場所：京都国際会議場（京都国際会館）
- 参加費：500円（資料代として）
- 主催：気候フォーラム—気候変動と地球温暖化を防ぐ市民会議—（TEL. 075-254-1011、FAX. 075-254-1012）
- 内容：スライド上映・各国からの出席者による報告・パネルディスカッション「削減議定書に向けて—市民・NGOの役割」

土佐ブントンをどうぞ

例年この季節には、高知の田中さんからはさくくとブントンのご案内をいただくのですが、今年は残念ながらブントンだけです。お見のがしのないように！

- 土佐ブントン（低農薬・有機栽培）
5kg 2L 10玉前後 3,000円

- L 12玉前後 2,500円
- M 15玉前後 2,000円
- 出荷：2月20日ごろ～4月下旬まで。
- ★送料：620円（関西方面）。その他の地域はお問い合わせください。
- ★お申し込みは田中隆一さんまで。
〒781-84 高知県安芸郡東洋町甲の浦
TEL/FAX. 08872-9-2500
- 売上げの一部をGENに寄付していただいていますので、ご注文の際「GENの紹介」と添えてください。

黄土高原パネル展
ジャスコ取手店で開催

ジャスコ取手店で黄土高原写真パネル展を開催中です。橋本紘二さんの写真で現地の様子を知るチャンスです。お近くの方、ぜひ一度ご覧ください。

- 期間：3月15日（土）～23日（日）
- 場所：ジャスコ取手店（茨城県取手市戸頭1118-1、TEL. 0297-70-2222）
- ※常磐線北柏駅下車、バスで15分

新リーフご活用ください!!

ちょっと失敗もしましたが（内緒）、新しいリーフレットができあがりました。今年12月の京都での気候変動枠組み条約第3回締約国会議にむけて、ますます緑の地球ネットワークを広げるためにご活用ください。